■田中義一 陸軍軍人、政治家。総力戦国家めざして首相になるも、〈張作霖爆殺事件〉で破綻、天皇の叱責で、急逝。

たなかぎいち

禁門の変・1864= 長州萩片河町(菊屋横丁)で、駕籠かき務める下級藩士田中信佑の三男に生まれる。母は美世。

明治維新・1868= 4歳:

腕白に育ち、

明治6年政変 1873= 9歳:

2874=10歳: 江向戸長役場の給仕となって収入を得ると。漢学者岡田謙道の{育英塾}に入り、

三つの反乱・1876=12歳: 新設の新堀小学校の代用教員に登用される一方、萩の乱に参加、

西南戦争・1877=13歳: 石部誠忠(桂太郎の従弟)に師事、

中国の古典を徹底的に教育され、

琉球処分・1879=15歳: 石部の推挙で、萩を出、長崎裁判所判事笠原半九郎の書生となる。

能弁で、人を飽きさせないキャラクターとなり、

明治14年政変 1881=17歳:

新体詩抄・1882=18歳: 志願のため上京し、

岩倉具視没・1883=19歳: 陸軍教導団砲兵科をへて、陸軍士官学校歩兵科に入学。

帝国大学始・1886=22歳: 卒業して、陸軍歩兵少尉となり、東京の歩兵第一連隊に配属、

帝国憲法発布 1889=25歳: 早くも陸軍歩兵中尉に昇進し、陸軍大学校に入学、

足尾鉍毒始・1891=27歳:

大本教・1892=28歳: 卒業し、

郡司千島探検 1893=29歳: 第一師団副官になり、

日清戦争始・1894=30歳: 命じられて動員計画を作成して、日清戦争に出征、第二旅団副官となり、

日清戦争終・1895=31歳: *第一師団参謀として活躍し、東京に凱旋、動員計画が高く評価されて、エリートコースに入り、

白馬会・1896=32歳: 参謀本部第二部部員、以後、ほとんどもを陸軍中枢機関の一員として活躍して行く。

八幡製鉄始・1897=33歳: 陸軍大学校兵学教官となり、多くのエリート同様、ドイツ留学をめざすが、

子規句歌革新 1898=34歳: 参謀本部部員、上司の田村怡与造部長から、ロシアへ留学を命じられ、駐在武官として赴任、

ロシア人になりきるべく様々な努力をし、ロシア語にも熟達、

ピアノ国产化・1900=36歳:

ロシアの陸軍大臣の計らいで、ロシア陸軍の内情を観察する機会を得るなど、大きな影響を受け、

教科書疑獄・1902=38歳: 西欧諸国を廻って帰国、参謀本部ロシア課主任となる。

日比谷公園・1903=39歳: 再び、陸軍大学校兵学教官。田村に海軍の大軍拡計画を批判する「随感録」を提出、

日露戦争始・1904=40歳: <日露戦争>では大本営陸軍参謀から満州軍参謀として転戦、その間に張作霖を助命し密接な関係を結び、

日露戦争終・1905=39歳: 凱旋。山県有朋の意を受けた「北守南進論」を繰返し主張して山県の懐刀となって行くとともに、

満鉄発足・1906=42歳: 山県の命により帝国国防方針の原案を作成するに際し、長大な意見書「随感雑録」をまとめ、

韓国反日暴動 1907=43歳: *国家総動員体制など以後の日本の進路を決定づける帝国国防方針となる一方、思想を現場に浸透させるためか、参謀本部のエリート将校としては異例の歩兵第三連隊長に出、各種の典範令改定に参画し、

伊藤博文暗殺 1909=45歳: 陸軍省軍事課長になると、「良兵即良民」主義を具体化する帝国在郷軍人会の創立に尽力。

韓国併合・1910=46歳: 少将に進級し、歩兵第二旅団長に転出。

大逆事件判決 1911=47歳: 軍務局長にすすむと、二個師団増設に奔走するも失敗、

明治天皇没・1912=48歳: 引責辞任し、第2次西園寺公望内閣を倒壊に追込み、第3次桂内閣で第二旅団長に復帰するが、

大正政変・1913=49歳: 憲政護憲運動で内閣が倒され、海軍の山本権兵衛が首相になり、さらに産業界や政党が力をつけて陸軍の危機が露わになると、逸早くこれら勢力との連携を画策、大臣現役武官制改正と引換えて増師実現するが、

第一次大戦始 1914=50歳: 陸軍トップ層の意図で政争から外され、参謀本部付となり、欧米視察に出、途次大連で発病入院中、

21ヶ条要求・1915=51歳: 意見書「滯満所感」を著して配布、帰国後、「社会的国民教育」を著す。中将に昇級し、参謀次長に就任。

民本主義・1916=52歳: 第2次満蒙独立運動を推進するが失敗。欧米視察で青年団の組織強化の必要性を痛感、全国青年団中央部理

事長となり、翌年にかけて、中国出張を挟んで、全国を講演旅行、在郷軍人会の理事長も務めるうち、

本格政党内閣 1918=54歳: 狭心症発して以降、体調不良。軍需評議会会長。原敬内閣の陸相となると、シベリア出兵を遂行するが、

大暴落・1920=56歳: 男爵。対米協調のため率先して軌道修正、陸軍への非難緩和で地位高まり、政党・財界からも評価。

原敬首相暗殺 1921=57歳: 大将になった直後、健康を害して辞任。

水平社結成・1922=58歳: 招待されてフィリピン訪問の帰途、上海で朝鮮独立運動者に狙撃されるも、負傷せず帰国し、軍事参議官

となる。山県の死後は長州閥の総帥の地位を占めるようになり、

関東大震災・1923=59歳: 軍人会副会長。第2次山本権兵衛内閣で2度目の陸相になり、総力戦国家体制仕上に向かうも、

護憲三派圧勝 1924=60歳: 内閣総辞職で頓挫、

治安維持法・1925=61歳: 立憲政友会総裁に迎えられたが、

円本時代始・1926=62歳: 議会で陸軍機密費300万円横領のスクランダルを追及され、信望をそこなうも、

金融恐慌・1927=63歳: *北伐にたいする幣原外交の「軟弱」を非難し、金融恐慌のさなかに政友会内閣を組織、首相、外相を兼ね、「

積極外交」の実行を使命とする。第1次山東出兵により北伐に武力干渉し、ついで東方会議を開いて満蒙分離

政策を練るが、

共産党事件・1928=64歳: 第2次山東出兵により済南事件が発生、激しい排日運動をひきおこし、張作霖を利用する満蒙分離政策は張

爆殺により破綻。この間、内政面では第1回普通選挙への干渉、三・一五事件、治安維持法の緊急勅令による

死刑法化などで、「暗黒政治」の非難を浴び、野放図な閣僚人事は党内外の批判を招き、

世界恐慌・1929=65歳: *満州某重大事件、不戦条約問題などを追及され、幹部将校らの突上げで、張爆殺犯人の処罰について虚偽

の報告をし、天皇に食言を叱責されて、総辞職後、狭心症で急逝した。